福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

形容詞形接尾辞「-クサイ」の評価性についての一考察 :ー「クサクテイイ」の例からー

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福井大学国際センター・語学センター 公開日: 2024-04-24 キーワード (Ja): -クサイ, 嗅覚表現, 評価性, 「新しいぼかし表現」, 帰属性 キーワード (En): “-kusai”, olfactory expressions, evaluation, new blur representation, belongingness 作成者: 鈴木, 梓, Suzuki, Azusa メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/0002000193

形容詞形接尾辞「-クサイ」の評価性についての一考察
ー「クサクテイイ」の例からー

鈴木　梓

要　旨

近年、嗅覚を表す形容詞「-クサイ」が「-ポイ」「-ラシイ」のように発話者の推量や判断を表す接尾辞として使用されている。「-クサイ」は従来「田舎くさい」など先行語の特徴に対するマイナス評価性を示すとされてきたが、近年では必ずしもそうではない。本稿では「-クサクテイイ」というプラス評価の「イイ」が共起する場合についてSNSを中心に観察し、接尾辞「-クサイ」の意味拡張の背景に日本語の特質、新奇性、帰属性を指摘した。すなわち「新しいぼかし表現」としての機能、既存用法との「ズレ」、自己の「キャラクター設定」である。

キーワード：-クサイ、嗅覚表現、評価性、「新しいぼかし表現」、帰属性

1．本研究の目的と背景

近年、日本語では、本来嗅覚を表す表現である「くさい」（「臭い」を含み、以下本文中では「-クサイ」と示す）が、形容詞形接尾辞として用法を拡張し、「-ポイ」や「-ラシイ」のように発話者の推量を表す意味で使われることがある。（下線は筆者による）

（1）　昨日長野電鉄に乗ったら慣れ親しんだ元日比谷線車両（鉄ヲタでないので何系とかわからん）だった事が驚きで気にも止めなかったけど、特急車両が使えなかったため、この元日比谷線車両で特急運行&車内放送が特急のままだったのが鉄ヲタザワつきのレア案件だったくさい。すごい日に行ってしまったな。（X　午後４：29・2023年10月15日）

（2）　最近仕事でのイライラハンパない。後輩にもナメられてるくさいし、あんまり温厚な感じなのも考えものだな。（X　午前０：15・2023年９月28日）

（3）　未納になってる年金の猶予申請しなきゃなあと思って色々調べたけど引っ越す前にやってれば免除にできたくさいな、だいぶ損した　手続きはやっぱり早めにだな（X　午後６：42・2021年11月11日）

（4）「あー。クレーマー臭くなっちまったの」
「正当な主張よ。クレームじゃないでしょう。決して間違ってないわ。…」
（京極夏彦（2010）「死ねばいいのに」p.118）

（5）「あれはOBくさいな」と思ったが、ひょっとしたら大丈夫かもしれないとも思った。（BCCWJ PB37_00048「わかりやすいゴルフのルール」（2003）今井汎　成美堂出版）

（１）～（３）はX（旧ツイッター）、（４）は小説、（５）は現代日本語書き言葉均衡コーパス（以下、BCCWJ）の例である。（１）では、「鉄ヲタでない（鉄道に詳しくない）」発話者が「状況から判断するに、ファンにとっては非常に珍しい機会であったらしい」こと、（２）では「後輩に軽んじられているらしい」と感じること、（３）では、「自分で色々調べた結果、免除にできる可能性があったらしい」こと、（４）では一般的に想起される「クレーマーっぽく」否定的に受け取られたこと、（５）飛んだボールが「OBらしく見える」が確信はないこと、といずれも個人の判断基準に基づく比較的弱い蓋然性が「-クサイ」で表されている。いずれも「-ポイ」「-ラシイ」と置き換え可能であり、現在では接尾辞として、以前には見られなかった述語接続も見られる。

従来、日本語における「-クサイ」は匂いの有無で大分され、マイナス評価に焦点が当てられてきた。「魚／酒クサイ」（匂いあり）、「学者／分別クサイ」（匂いなし）など、先行名詞の特徴に対して発話者の内的基準に照らし「過剰」と感じられた場合にマイナス評価を示す語として使用されると指摘され、山下（1995）などに「マイナス評価」の指摘（表１）が見られる。

表１　山下（1995）に基づく「-クサイ」の意味（筆者作成）

結合	名詞				形容動詞語幹	動詞連用形
臭覚	有		無		無	有
意味	Nのにおいがして不快な感じがする状態	結合するNのにおいから連想される状態や性質を対象がもっている	結合するNがもっている特徴や性格がはっきり外に表れている	対象をNではないかと疑ったり、推量したりしている	話し手が対象に抱いた感情や判断を強く表す	Vしたその結果くさい
先行	評価性を含まないモノやトコロ名詞	比喩的なだけでにおいを意味しない場合もある	ヒト名詞が多い	自立語「疑わしい」「怪しい」用法同様の意	マイナス評価	不快なにおいに関係する動詞、限定的
評価性	マイナス	文脈による		マイナス	マイナス	マイナス
例	油、磯、白粉、酒、ガス、汗	バタ、泥、抹香、乳、糠味噌	学者、年寄り、素人、ばば、田舎	憲法違反、戦術	邪魔、けち、馬鹿、面倒、貧乏	焦げ、すえ、寝

しかし近年の意味用法拡張では、もはや匂いの有無も品詞にも関係なく、先行語のなんらかの特徴に着目できれば後続し「-ポイ」「-ラシイ」同様に機能する。このような接尾辞使用の場合には、マイナス評価は減じ発話者の感情を強化する意味合いを持つ[i]という指摘もあり、山下（1995）と相反する。近年、既存の「-ポイ」「-ラシイ」に加え「-クサイ」が使用される背景について、接尾辞の場合のマイナス評価性の有無を明らかにすることが本稿の目的である。

２．先行研究

近年、接尾辞として「-クサイ」の研究が進みつつあり、本稿も概ね先行研究に倣うものである。主なものを以下に挙げる。

まず、岩崎（2016）は、（１）～（３）のような「（Xは）Yクサイ」の形でXとYの関係性を表す用法は、大正期に見られ始めたと述べている。接辞としての「-クサイ」を通時的に観察し、大正期に「（ある人物）XはYに属する」ことを示す用法が見られ始め、「昭和期の半ばになると、目の前にある不明の物体Xについて、「XはYである可能性がある」と判断する例が見られ」「過去の出来事の真偽に関わる判断を示す句接続の例が見られる」（p.45）と述べている。昭和期の半ばには副詞「どうも」「どうやら」との共起も見られ、助動詞的な用法が広まりつつあったこと、評価性について、「基本的に話者のマイナス評価を伴った判断が成される語だが、「照れくさい」ならびに推量用法の例ではマイナス評価が薄いものも見られ、特に近年インターネット上ではそういった例も見られる可能性があることが明らかになった」（p.45）と述べている。このことから、現代日本語での「-クサイ」の助動詞的な意味用法への拡張は自然な流れと思われる。しかし、岩崎（2016）では「（この出火は状況の判断からどうやら）不審火くさい」（p.1）のような接尾的な例と、「水くさい」「うさんくさい」「面倒くさい」のような固定化した例が一律に述べられ、一定の線引きが必要であると思われる。例えば、「水くさい」の語は、本来は味覚に関して、水分が多い→味が薄い…→情愛が薄い、と意味拡張したことが指摘されている（池上2014など）が、「君は水くさい（他人行儀だ）」「この酒は水くさい（話者の期待する適正な濃度に不足している）」のどちらの意味でも、発話者の内的基準に照らして必要水準に足りないことが示されており、評価性はマイナスと理解できる。しかし「水くさい」が「『水』商売従事者のようである」意味で使用された時期もあり（「彼女は水くさい」など、現在は「お水っぽい」の方が一般的か）、こちらは内的適正基準がなく、単独では評価性が判断しづらい。

発話者の対象への感情や推量として使用される場合の「-クサイ」は、マイナス評価が低く１回的で匂いが無いと岩崎（2016）では指摘される（図１破線囲み部分）。岩崎（2016）で基本スキーマとされる「人やものの恒常的な性質を示す」性質は、主に「うさんくさい」「水くさい」など固定化が進んだ

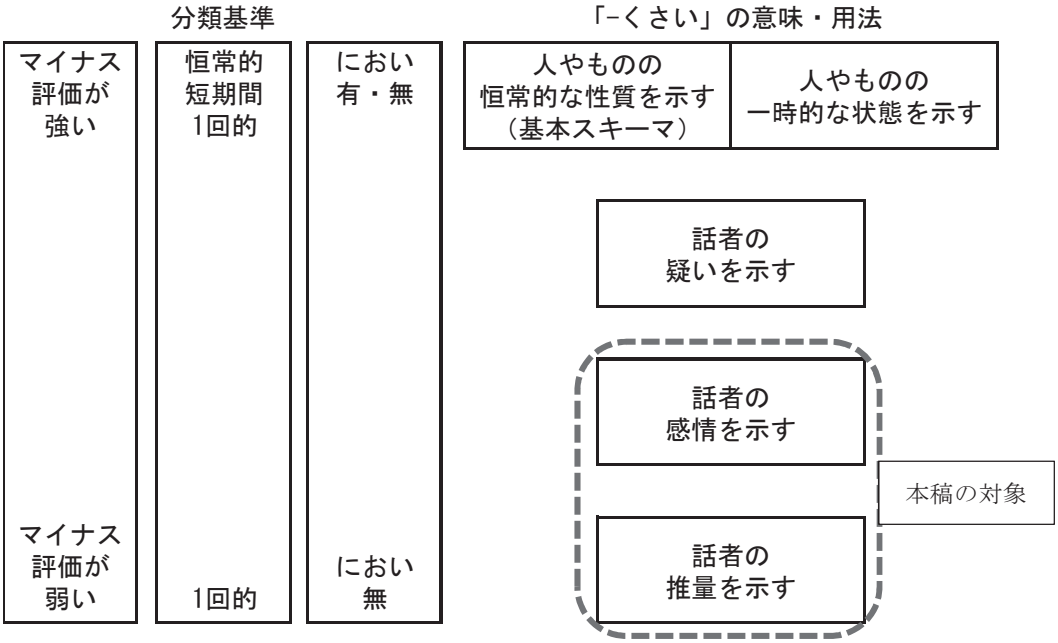

図１　岩崎（2016）「-くさい」の意味用法（p.51）にもとづき筆者作成。破線は筆者による

表現に見られ、これは、「-クサイ」だけではなく、一語化形容詞の品詞的な特性も大きい（「大人っぽい」など）と考えられる。

現代語での「-クサイ」用法を「-ポイ」「-ラシイ」と比較し、形容詞形接尾辞としての「-クサイ」を扱った先行研究の主なものに山下（1995）がある。３語の共通点を「結合語基を対象への評価・判断を表現する形容詞に変える機能を有する点」（p.203）とし、名詞接続の「-クサイ」の意味を以下の４つに分類している。「(a）結合するNのにおいがして不快な感じがする状態である。(b）結合するNのにおいから連想される状態や性質を対象がもっている。(c）結合するNがもっている特徴や性格が、はっきり外に表れている状態である。(d）対象をNではないかと疑ったり、推量したりしている状態である。」（p.203）「結合する名詞は評価性を持たないが、「-くさい」が結合すると、自立用法の意味を残す（a）と（d）においてはマイナス評価を表す。自立用法の意味を持たない（b）（c）においては必ずしもマイナス評価を表すとはかぎらず文脈による。」（p.203）としている。本稿で扱う「推量」にあたる（d）では、岩崎（2016）の「マイナス評価が弱い」と評価性の点で対立する。このことからも推量の場合の評価性について検証する必要がある。 評価がマイナス評価に限らない点については、李、和田（2012）でも指摘されている。さらに堀尾（2015）やSeraku, Akiha（2019）では、若者言葉において「-クサイ」が「-ポイ」と共通するぼかし表現としてのモダリティ的側面を帯び始めていることを指摘している[ii]。

３．調査

以上から、本稿では接尾辞としての「-クサイ」の評価がマイナスかプラスか、という点に着目し、プラス評価の「イイ（良い）」との共起表現である「-クサクテイイ」の使用状況について、コーパスとツイッター（現X、「高度な検索」「キーワード全体を含む」にて「くさくていい」を検索）で考察した。まず先行研究では特に示唆されていない書き言葉と話し言葉での使用差を確認するため、現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）及び日本語話し言葉コーパス（CSJ）、名大会話コーパス（NUCC）で「-クサクテイイ」の出現を見た結果、BCCWJでは２例のみ、CSJとNUCCには出現例がなく、書き言葉と話し言葉での差とするには足りなかった。収録時期による影響も考えられるが、BCCWJでは2005年に「-クサクテイイ」とプラス評価の表現が見られる。（６）、（７）はBCCWJの該当箇所抜粋である。

（６）「ヒート」男くさくていい（2005：OC01_02166）
（７）　けれど私は人間くさくていいと思いますがね。（2005：OC03_02017）

続いて、Xでの検索例を示す。対象期間は2023年７月８日から９月８日までの３か月間で、「-クサクテイイ」の全表現を対象とし、①「プラス評価」45例、②「許容」（-てもいい）６例に二分した。しかし表３の４、５など①か②か、当該ツイートだけでは断定しかねるものもあった。４は疑問の終助詞「かな」があること、５は「あってもいい」が直前にあることから、今回は「-てもいい」に属すると捉え、除外している。

「プラス評価」に着目するため表３に示す「-てもいい」と読めるもの[iii]は対象外とし、接尾辞機能に注目するため、先行語がないもの、名詞と「-クサイ」が接続せず助詞の脱落が疑われるもの２例は除外した[iv]。先行語内訳を表２、除外したものを表３、対象としたものを表４に示す。該当部分は下線で示している。

表２　「-クサクテイイ」①の先行語内訳（45例、出現数順）

人間	11	**童貞（童○）**	2	**男**	1	儒教	1	再燃してる	1
厨二（２）	8	**変態**	2	**ガキ**	1	昭和	1	合計	45
おっさん	4	**アホ**	1	**三雄**	1	偽物	1		
嘘	2	インチキ	1	自衛	1	平成	1		
漢	2	**オタク**	1	宗教	1	リバ	1		

表３　「-クサクテ（モ）イイ」②X出現例該当部分抜粋（６例、出現時順）※対象外

1	もはやオタクくさくていいからおしゃれ楽しみたい～　楽しくないよ	９月	６日	21：58
2	いぬはおしっこくさくていいの	９月	４日	20：12
3	もっと野菜くさくていいから酸っぱくない野菜ジュースほしくない？	９月	４日	11：57
4	人間っぽい　人間くさくていいのかな	９月	２日	22：22
5	「汚い部分があってもいいんだよ」「人間くさくていいんだよ」そう言える姫宮桃李さまが一番器の大きな存在です。	８月	22日	23：12
6	自分に対してはずっと説教くさくていいんだ。	８月	16日	０：35

表４「-クサクテイイ」①X出現例該当部分抜粋（45例、出現時順）

1	かっけぇ　とても自衛くさくていい	９月	７日	22：24
2	王国再燃してるくさくていいね～！折腹が珍しく重要ポジにいて嬉しいやつちょっと描く（描いてる）	９月	７日	20：47
3	なんと履修済みですw男くさくていいですねぇ	８月	６日	３：12
4	ふかざーさんのお御足がめちゃくちゃおっさんくさくていいな	８月	５日	１：58
5	二宮さん人間くさくていい	８月	４日	12：53
6	あの指輪宗教くさくていい	８月	３日	９：27
7	この二人はリバくさくていいな…お互いにドライな悪友って距離感良すぎる。	８月	３日	１：42
8	偽物くさくていい。可愛いフリに失敗してるのがとても好き	８月	２日	15：54
9	やっぱりナワバトラーのエモートが一番厨二くさくていいな	８月	１日	16：12
10	人間くさくていいですよね	８月	31日	22：05
11	って自ら見せてくれる受けは変態くさくていいね	８月	31日	18：31
12	フェニロボ人間くさくていいんですよw	８月	30日	15：06
13	律子先生を選べなかったのはめちゃくちゃ人間くさくていいね…となる	８月	29日	19：57
14	タラの芽好きな乱数もおっさんくさくていい。	８月	28日	23：36
15	フォグある方がおっさんくさくていいんだけど、フォグない方がごちゃごちゃしなくていいなっていう	８月	27日	16：06
16	少なからずあるししょうがないのかね　人間くさくていいね	８月	27日	０：25
17	ガキくさくていいな…	８月	25日	９：23

18	人間くさくていいじゃない、みんな人間だものね。	８月	24日	22：46
19	勇者どん　の方が昭和くさくていいかなぁ	８月	24日	16：10
20	りねはなんか童貞くさくていい	８月	23日	23：33
21	Irって言葉が嘘くさくていいよね。	８月	23日	0：48
22	バイトとかで生活崩れても気にしない　人間くさくていい	８月	22日	17：37
23	メラグちゃんの名乗りが一番厨二くさくていいな	８月	22日	15：35
24	感情ぶちまけまくりで「人間くさくていいな～」とほのぼのしてたら	８月	22日	15：27
25	いやこの純真無垢さが童〇くさくていいんですよむしろ。	８月	21日	11：32
26	ヒゲ三雄くさくていいですよね…ロマン…	８月	21日	11：11
27	お金なくてピカピカのバイク買えないの？とか思われるかもしれませんが、たくさんの傷や汚れ、漢くさくていいじゃないですかカッコ良いじゃないですか。	８月	20日	20：31
28	シチュまで厨二くさくていいねぇ～	８月	20日	8：34
29	ダークネスおぐう厨二くさくていいですね。	８月	19日	20：24
30	ありがとうございます！インチキくさくていいですよね💜	８月	17日	18：56
31	なんかいい意味で漢くさくていいですよね💜	８月	17日	15：28
32	Xのアイコンにヒビ入ってるの厨二くさくていい　絶妙なダサさ	８月	17日	12：57
33	ブルアカもちょっと儒教くさくていい	８月	17日	10：30
34	覇権アプリテレクラめちゃめちゃアホくさくていいな	８月	17日	0：17
35	そぉぉ～～～－💜💜💜変態くさくていいよね！！！！	８月	16日	16：56
36	厨二くさくていいやん	８月	16日	14：01
37	人間くさくていいじゃないですか…💜	８月	15日	23：35
38	スタヌ人間くさくていいじゃん	８月	14日	19：21
39	エヴァンゲリオンの登場人物は　ほんといい意味でも悪い意味でも　人間くさくていいなぁー	８月	13日	19：48
40	今日買ってきたんだけど、名前が厨二くさくていいね☺	８月	12日	20：33
41	嘘くさくていいねw	８月	12日	20：17
42	つって寝るのすごいオタクくさくていい　すごいな？？？？？？	８月	11日	22：07
43	いや、いい意味でおっさんくさくていい！！	８月	11日	19：14
44	厨２くさくていいな	８月	11日	1：04
45	アマガミ全部見た平成くさくていいな	７月	28日	1：40

４．考察

本稿で対象とする表２及び表４を見る。まず、今回の調査で先行語には名詞が多く、様々な品詞に接続可能とはいえ依然として名詞に接続しやすいことが明らかになった。その上で、先行語など使用環境について見ていく。注目すべきは、以下の４点である。

まず１点目に、表２に太字で示しているが、先行名詞は人を指すものが多い（21語中８語）点である。自衛、嘘、インチキなども広義では人に関係したものと言える。２点目に、元号（「昭和」や「平成」）が入っている点である。Xで検索したところ、同じ元号でも明治・令和は見られなかったが、2010年に大正[v]の例が一例見られ、文明開化直後の日本を舞台にした作品[vi]への評価であった。ほかには、「90年代くさくていい」[vii]など「年代」についての例が見られた。先行する時間を表す表現には、使

用者が容易に想起できる特徴が必要である。例えば「明日くさい」のような例では、「明日」は個人差があり、使用できない(「試験は明日くさい」(明日行われるようだ、の推量の意味では可能)。つまり「-ポイ」「-ラシイ」同様、共通認識がない場合には使用できない。「令和」はまだ改元後6年で、特徴が固まっていないため使用されていないと思われる(ただし、「令和って厨二くさい」のような「令和」という年号に対する言及は見られた)。今後、令和という時代に対し、ある程度共有される特徴が生まれれば、「令和クサイ」が使用される可能性はある。同様に、「明治クサイ」[viii]や「縄文クサイ」[ix]は見られ、文脈による評価性も必ずしもマイナスではなかったが、「-クサクテイイ」の形では見られなかった。評価するほどには共有の特徴が想起しにくい可能性があり、どの程度の期間が特徴の共有認識に影響するのかという点も興味深いが、現時点では推測の域を出ない。3点目に、「厨二(2)」が目立ったことである。これは「中二病」を意味する表記で、1点目の人間に関係するものに追加になるが、「自衛」のような、特徴が想起しやすい帰属集団への言及も目立った。4点目に、「再燃してる」と句接続が見られたことである。接続するのはやはり名詞が多かったが、X検索の結果「-クサイ」は形容詞など[x]文末表現にも使用されており、接尾辞として「-ポイ」「-ラシイ」のように文末に出現し使用者の主観的判断を示していることがうかがえた。ただ、先行語が形容詞の場合、文脈から評価性がプラスと理解できるものはあるものの「-テイイ」とさらに形容詞をつける例(「カワイイクサクテイイ」など)は見られなかった。

次に表3を見る。除外したものでは匂いがあるものが表3-2及び3、「オタク」「人間」は本稿で対象とする表4にも見られた。表4に匂いの明らかなものはないが、表3-2、3は匂いがあるとも理解でき、山下(1995)の(a)に該当すると考えられる。「てもいい」と結びついていることから「たとえそうであったとしても」という「不快」のマイナス評価が前提にあることがわかる。また、表3-6の「説教」では「説教くさくなくていい」や「説教くさいが、敢えてそれがいい」などの例が見られ[xi]、先行語がマイナス評価かつ一語化しているものはマイナス評価が保持される傾向がうかがえたが、例が少ないため今後の課題とする。

以上から、接尾辞としての「-クサイ」の評価性が、必ずしもマイナスに限らず、プラス評価の「-イイ」に結び付けられることが明らかになった。ただし、表4の「いい」であっても、25「むしろ」、31、39、43の「いい意味で(も)」が共起していることから、マイナス評価も失われてはいない。話者が「一般的ではないかもしれないが、敢えて」と逆の意味で効果を狙って使っていると考えられる。以上を踏まえ、現代日本語の「-クサイ」が従来よりも評価性を問わず推量表現にまで意味拡張していると言える。その背景として、以下の3点が考えられる。

まずそもそも日本語が持つ特徴として、「-クサイ」を含む嗅覚表現が視覚、広く雰囲気や印象も表しうる点である。古語「ニホフ」「カヲル」などにはそもそも視覚の意味が含まれ[xii]、現代でも部分的に残っている意味である。例えば、犯人と思しき人物に対し、「あいつがくさい」「何かにおう」のように使う例が該当しよう。この用法は日本語に限らず、英語や韓国語でも使用されるが、日本語ではさらに嗅覚形容詞の「かぐわしい」に「心惹かれる好ましい様子」の意味がある[xiii]ように、嗅覚表現の用法範囲が広い。さらに、「けちくさい」「陰気くさい」のように「-クサイ」は形容詞であり、名詞に接続しやすい。これは他の言語にはあまり見られない。例えば韓国語では「くさい」が「においが

する（냄새가 나다）」と文で表現し、名詞に接続しにくい。英語でも同様であり、これは汎用性に影響する特徴であると考えられる。

次に新奇性である。従来と違う表現や意味を持たせることで、目を引くという効果がある。特に、不特定多数を対象としたSNSのような場面で評価を獲得するためには、新奇表現で目を引きつつ、同時に理解と共感を得る必要がある。ここでの新奇表現には、違うことにより目を引くと同時に、理解できる範囲でありながら意味が従来とは多少異なる、という、正用との適度なズレが必要とされる。これは陣内（2005）の「新ぼかし表現」に共通する。陣内（2005）では、「新ぼかし表現」の特徴に「もっぱら話し言葉の中で使われ、正用から少しずれているという認識があり、この「逸脱意識」が会話にノリを出したり、笑いを誘うような遊戯性を醸し出す」（p.131）特徴が挙げられている。Xは書き言葉でありつつ話し言葉に近く、「ノリ」の必要性も理解できる。これまでのマイナス評価性を理解しつつ、敢えて、しかし不特定多数が理解できる範囲でのプラス評価で使用することで正用とのズレを持たせ、その逸脱性を楽しんでいる。

最後に帰属意識である。天野（2001）は、言葉による自己の属性表示機能を指摘している[xiv]。すなわち、使用する語彙や表現によって、発話者の特性を演出することができるという、役割語のような意味合いである。これは広い意味では、「わしは…じゃ」が老人を示すような、一人称や文末表現での自己属性表示機能とも理解できよう。「-ポイ」「-ラシイ」ではなく、敢えて「-クサイ」を使用することで、「正用とのズレによるノリ」を理解し楽しむような人物像としての自己表示が可能になる。たとえば表３-17「ガキくさい」などを、一般的にはマイナス評価であることを理解したうえで、敢えて好むという、趣味性が高く差別化された人物像、いわば「キャラ付け」が可能になる。このような働きは、Xのような匿名性が高いSNS上では共通する「キャラ」特性を持つ集団コミュニティを形成するためのいわば通過証としての役割も持つ。これは陣内（2005）で指摘される「近づく配慮」に該当する。Xの初期設定では現在より文字数の制限が厳しく、限られた文字数の中でのキャラ作りには、特に一人称や文末表現などによる印象付けが効果的であったことも、「-クサイ」使用につながったと考えられる。

さらに加えて言えば、「-クサイ」は「-ポイ」「-ラシイ」同様、断定を避け使用者が「そうである可能性が高いと考えるが不確か」な事象に使用され、もともと日本語で使用される婉曲表現による遠慮や敬意との親和性が高い。若者言葉について、陣内（2005）は「近づく配慮」と「近づかない配慮」を指摘している。「近づかない配慮」は断定を避ける従来の婉曲表現であり、「近づく配慮」は「推察の余地のないタイトな表現よりも緩くて遊びのある表現の方が場の雰囲気を和らげてくれる，という表現効果」（p.131）である。現代日本語では、「近づかない配慮」として婉曲などで距離と遠慮が、「近づく配慮」として「ノリ」などで親和性が同時に示される。米川（1998）でも「言葉に新たな意味を与え、仲間内で使用することで自己のアイデンティティを確認しつつ、仲間の連帯感と同時に他者（ヨソ者）との差異化をはか」（p.278）ることが指摘されており、本稿で扱った「-クサイ」の使用もこのような特徴の延長上にあると推測される。

5．まとめと今後の課題

以上から、接尾辞「-クサイ」が「-クサクテイイ」の形でプラス評価の「-イイ」と共起する場合について、意味と現状を以下の10点にまとめる。

1. 「-クサイ」は、現在プラス評価の意味も持つ
2. 「-クサイ」は、文節など名詞や形容詞語幹以外にも後続し、先行語を問わない接尾辞として使用されつつある
3. 日本語の「-クサイ」は形容詞であり接続がしやすく使用範囲が拡大している
4. 「-クサクテイイ」の形でプラス評価を表す際、先行語は名詞が好まれやすい
5. 「-クサクテイイ」の形でプラス評価を表す際、先行名詞は人に関するものが好まれる
6. 「-クサクテイイ」の形でプラス評価を表す際、先行名詞は特徴がすぐに理解できるような特定の時に関するものも見られる
7. 「-クサイ」の先行語には、その特徴をすぐに理解できるような共通認識が必要である
8. 「-クサイ」使用の背景には日本語の嗅覚表現の幅広さがある
9. 「-クサイ」使用の背景には現代日本語の配慮表現がある
10. SNS（X）での「-クサイ」使用の背景にはキャラ設定の意識がある

「-クサイ」はプラス評価の「-イイ」とも共起でき、「-クサイ」のみで見ても、接尾辞の場合マイナス評価に限定されない。これは図１で本稿の考察対象とした「話者の感情」「話者の推量」の場合にはマイナス評価が低いという岩崎（2016）の主張に沿うものであり、加えてマイナス評価が低いだけではなく「-クサイ」ことが話者にとって結果的に「-イイ」と判断される、すなわち文脈解釈ではプラス評価となる可能性も示唆された。「-クサイ」そのものの評価性が弱化し、話者の推量を表すマーカーの機能を増しつつあることがわかった。もちろん意味変化として漂白や反義化と解釈することも可能であるが、SNSのような不特定多数に向けての発信が一般化している影響も考慮できる。つまり、一般的な意味とは逆の表現をすることで新奇性を持たせること、および特にSNSではそのような通常とは違う表現をすることをあえて好み目立とうとする「キャラ立ち」（「キャラクターを（目）立たせる」）や、そのような表現を好む集団に属したいという帰属意識の影響も拭えず、現代ならではの現象と言える。

嗅覚に限らず、感覚表現を見る場合、感覚の有無が注目されやすい。嗅覚表現では匂いの有無に気を取られがちだが、匂いの有無や強さ、快・不快は主観によるところが大きく、客観的判断基準とは言いがたい。さらに日本語では、実際に嗅覚で感知する匂いが無くても「いかにもそのような雰囲気」を広く嗅覚表現で示せる。近年、何かを示唆することを「匂わす」（動詞）「匂わせ」（名詞）と表す例（「会ってる時に好きを匂わせ、LINEでは塩」[xv]「匂わせはマジで死んで欲しい。推しだろうと匂わせする奴は本当に無理。」[xvi]など）も多く見られ、日本語がそもそも匂いと雰囲気を明確に分けない傾向があるなら、今更匂いの有無を問う必要はない。

山下（1995）で「Nのにおいがして不快な感じがする状態である」例に「油/磯/白粉/酒/ガス/汗」（p.199）が挙げられているが、「今日は前に取ったロブスターの出汁にハマグリを追加した磯くさーいラーメン」（X：2019年８月11日午前９：25）という投稿のリプライは「美味しそう」などプラス評価

のみで、文脈全体で見るとマイナス評価ではない。また、油、汗などは「-ポイ」でも同様にプラス評価とは言い難く、「-クサイ」が必ずしもマイナスと言うわけではない。

さらに、既存の「-ポイ」「-ラシイ」は判断基準が視覚や聴覚、伝聞の場合でも使用される。新たに主観的な基準である嗅覚表現「-クサイ」を使用することで、従来よりも「主観的な判断基準」で「あくまで自分の個人的な判断である」ことを示して、意見の押し付けを避け、配慮を働かせているとも言える。もちろん今回対象とした用例は非常に少なく、BCCWJが2009年までの用例のみであることなどから、経時的な観察も必要である。今後はより多くの例を経時的に考察対象とし、広く現代日本語の嗅覚表現の変遷について見ていきたい。

注

i　「接尾語として用いられる「～くさい」は先に述べた“…のようなようすを帯びる”意のほか、さらに発展して、主として形容動詞の語幹に付き、感情性を強調するだけの働きとなる。」森田（1988：383）

ii　“This use of *kusai* is comparable to the bokashi function of *poi*.”（Seraku, Akiha 2019：14）

iii　「もっと野菜くさくていいから酸っぱくない野菜ジュースほしくない？酸っぱくないと日持ちしないから無理かな…」（９月４日11：57）

iv　「それにしてもこのビデオ好き💥臼田さんの顔芸と姿勢が最高💥ケンさんの顔芸くさくていい走り方と最後の「練習した？ w」みたいな右手いい　なによりいきなりのフットボール展開が好き💥」（2023年８月25日１：19）

「#泥棒と若殿　松緑さんは山本周五郎が似合う　人間くさくていい奴でかわいかった。巳之助さんはどんな役も上手いなぁ。若殿の葛藤と覚悟が清々しかった。500円で観られてありがたい🙏」（2023年８月15日23：35）

v　「ざくろって本当時代背景が大正くさくていいよね！！！」（2010年10月５日１：45）

vi　『おとめ妖怪ざくろ』星野リリィ（2006年～）幻冬舎コミックス、テレビアニメ及び舞台化もあり

vii　「血界戦線みたからねよ😊🚒キャスト豪華&動きすぎで理解がおっつかない、90年代くさくていい、そしてクラウスかっこいいはぁ😻」（2017年10月16日１：15）

viii　「近藤の凄味がすごい。こうして見ると、新しい制服、若干明治くさい雰囲気がする。ベストとベルト萌えの自分は、前のデザインの方が好きだな。」（2017年１月29日20：54）

ix　「御柱祭とかモロ縄文くさいと思うんだけど」（2015年12月23日22：24）

x　「そーいえば、博多くん特つけたので51階突撃してみたけどやっぱりムリがあったよねw っていうか、そもそも短刀がキビしいくさい。高速槍が出るんだよな…。これまでのちょい早い槍じゃなくてフツーに６面みたいな槍。」（2015年６月13日10：48）

xi　ハヤオの『君たちはどう生きるか』、説教くさくて独りよがりなこっちがぽかーんとなるくらいの作品で（が）いいと思ってる。逆に言うと、ここにきて最高傑作見せられたらどうしよう…という怖さ（がまだある）。（2023年７月12日23：34）

xii　「にほふ」（美しく咲いている。美しく映える。）「春の苑　紅にほふ桃の花　下照る道に出で立つ

乙女」（万葉集　四一三九））「かをる」（つややかに美しく見える。）「まみのかをりて、笑（ゑ）がちなるなどを」（源氏物語　柏木）など、学研全訳古語辞典より部分抜粋

xiii　か－ぐわし・い〔－ぐはしい〕【▽芳しい／▽香しい／×馨しい】2　心が引かれる。好ましい。すばらしい。「あなたとの最初の邂逅が、こんなにも、海を、月を、夜を、―・くさせたとしか思われません」〈田中英光・オリンポスの果実〉「見まく欲（ほ）り思ひしなへに縵（かづら）かげ―・し君を相見つるかも」〈万・四一二〇〉goo辞書
＜https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E8%8A%B3%E3%81%97%E3%81%84_%28%E3%81%8B%E3%81%90%E3%82%8F%E3%81%97%E3%81%84%29/＞（2023年９月10日参照）

xiv「「ことばは、情報伝達の機能と同時に、自己の属性を表示する機能を果たすものである。自己の属性を表示する機能を果たすためには、バリエーションが必要である。なぜなら、バリエーションのうちの、どれを選択するかによって、品のよい人か悪い人か、堅い人か柔らかい人か、新しもの好きか懐古趣味的かなど、さまざまなことを示すことになるからである」（天野2001：107）

xv「【男を爆発的に沼らせるとんでもない裏技...】・会ってる時に好きを匂わせ、LINEでは塩・足出しコーデでデート・つぶらな瞳で話を聞く・「え～マジ好きだわぁ」ってさりげなく言う・聞きに徹する・褒めろ褒めろ褒めろ・会う度、恋バナをする・心理学を使う（固ツイが最強...）今すぐやって」（2023年12月20日15：13）

xvi「匂わせはマジで死んで欲しい。推しだろうと匂わせする奴は本当に無理。プライベートやたまたま撮られた週刊誌でおそろいだのなんだのはいいけどFC限定の有料ブログやYouTubeとか「お仕事」の場で公式発表する前に匂わせするやつはたるんでると思う。付き合うのは勝手だけど仕事に持ち込むな」（2023年12月19日14：59）

引用・参考文献

天野みどり（2001）「若者ことば：銅メダルとかとった（特集２「少年」の現在）」『東西南北』pp.101-107、和光大学総合文化研究所年報

池上尚（2014）「水クサイの意味変化－水ッポイとの共存過程から考える－」『日本語の研究』10巻２号、pp.33-48、日本語学会

岩崎真梨子（2016）「接辞「－くさい」の推量的判断に関する一考察」『岡大国文論稿』（44）、pp.60-43、岡山大学言語国語国文学会

陣内正敬（2005）「ぼかし表現の二面性－近づかない配慮と近づく配慮－」『言語行動における「配慮」の諸相』pp.115-131、国立国語研究所

堀尾佳以（2015）「若者言葉にみられる言語変化に関する研究」九州大学博士論文

山下喜代（1995）「形容詞性接尾辞「－ぽい・－らしい・－くさい」について」『講座日本語教育』第30分冊　pp.183-206、早稲田大学日本語研究教育センター

米川明彦（1998）『若者語を科学する』明治書院

李成圭、和田康二（2012）「接辞「ポイ」「ラシイ」「クサイ」の運用について－名詞語基を中心に－」『日本学報　일본학보』91、pp.243-257、韓国日本学会

Tohru Seraku, Takako Akiha (2019) “Poi in Japanese Wakamono Kotoba ‘Youth Language’: A view from attenuation at the speech－act dimention”, *Lingua* Volume 224, Elsevier B. V., pp.1-15

「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版　BCCWJ－NT」〈https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj－nt/search〉（2023年９月７日参照）

「日本語話し言葉コーパス　CSJ（中納言版）」〈https://chunagon.ninjal.ac.jp/csj/search〉（2023年９月７日参照）

「名大会話コーパス　NUCC（中納言版）」〈https://chunagon.ninjal.ac.jp/nuc/search〉（2023年９月７日参照）

「X　高度な検索」〈https://twitter.com/search－advanced?lang＝ja〉（2023年９月８日参照）

A Study on Evaluation of Japanese Olfactory Adjective "*-kusai*" as Suffix: Focusing on Positive Usage "*-kusaku-te-ii*"

SUZUKI Azusa

In modern Japanese, the olfactory adjective "*-kusai*" has been used as suffix of conjecture, like "*-poi*", "*-rashii*" and "*-youda*". Though the olfactory expression is few and limited universally, why it has widened the meaning and usage only in modern Japanese so drastically? Does it have the negative value as other languages? This paper mentioned the reasons and revealed the 3 main reasons through X exams: ambiguity, novelty and belongingness. Japanese olfactory expression is not limited in just olfactory sense, and can refer to visual, mood, possibility, and user's feelings widely even to new blur usage. Its widened usage sometimes seems to an error or a mistake and is accepted as part of funny word games, that enables players to communicate easily and frankly with many and unspecified unknowns like X. Its users can strengthen their self-actualization and memberships by utilizing such mistake-like usage as their dialect. "*-kusai*" can be used in both approaching and receding consideration contexts, which is changing its evaluation. Modern Japanese olfactory expression has lessened its negative value yet and widened its meaning and usage.

Key words: "*-kusai*", olfactory expressions, evaluation, new blur representation, belongingness